



善正寺だより

〒:512-0902
 三重県四日市市
 小杉町1014
 浄土真宗
 本願寺派
 善正寺
 ☎:059-331-1670
 fax:059-332-0733

掲示板法話

死は忌むべきことではない

往生浄土の人生を精一杯生き抜こう



「コロナ自粛に右往左往している間に、この一年も過ぎ去り、早くも師走を迎えました。」

直接に感染死の人は知らぬまでも、通院や受診をためらっている間に、急な身体の変容で、ほとんど手当もできぬ間に亡くなられた方もあります。ご家族やご縁深き皆様にはひとしお、お淋しいこととお見舞い申し上げます。

秋口から「喪中につき新年のご挨拶を失礼させていただきます」という喪中葉書がよく届きます。わが両親は、母が十二月の二十二日、父が四年後の十二月十六日に往生の素懐を遂げましたので、既に通常の年賀状を出してしまつたのですが、それを記憶していた人がいました。

最近、義父を亡くされたご家族の方から「喪中葉書の習慣は、死を穢れと受け止める寂しい思想が根っこにある。自分も先生(私のこと)のように喪中葉書でなく、浄土真宗らしい年賀状を出したいのでアドバイスを…」とのことのお話がありました。その女性は連続研修、中央教習を受けて、門徒推進員の自覚

を忘れず、前向きに活動を続ける熱心な安芸(広島県)門徒。中陰法要「こと」に法話をしない手次寺の住職に代わって、お参りの方々に感話をお聞きいただくほどの念仏者です。彼女の勇氣ある念仏者らしい考えに賛同し、次のような返信をさせていただきました。

「生のみが我らにあらざ、死もまた我らなり(清沢満之師)との教えもあり、生死の我らが丸ごと、如来さまのお救いのお目当てです。」

「この世の縁の尽きる時 如来の浄土に生まれては さとりの智慧をいただいで あらゆる人をすくうなり」(浄土真宗の救いの喜び)とのこと言葉の通り、私たちは死んで空しく終わる命ではありません。お浄土に仏さまと成り、すぐにこの世の私たちをお救い下さる仏さまとしてわが前に来ていただいている(還相回向)のですから、往生はめでたきことなのです。肉親の別れは人間感情の上から寂しいことに違いありませんが、合わす手の中に亡き人が温もりと感じられる世界がある。寂しさを超える温もりの中に、この

人生を精いっぱい生かされて参りたいというお気持ち年賀状にしたためては如何でしょうか?そんなお答えをさせて頂いたので。

私は父の往生(八十六歳)の二日前の夜、「親鸞さんに遇うてよかった。ありがとう」という最後となる言葉を聞きましたので、先に年賀状を出した違和感や後悔はありません。皆さん、死を忌むべきこととする考えを超えて、往生浄土の人生を精いっぱい生き抜きましょう。

「安楽浄土にいたるひと 五濁悪世にかへりては 釈迦牟尼仏のごとくに 利益衆生はきはもなし」(浄土和讃)

☆行事ご案内☆

◇お内仏報恩講



12月4日(土)午前10時半

コロナの為、お参り後の会食はお持ち帰り弁当です
 秋勧進の時に出席を伺います。ご家族複数の方の弁当申し込みOK。11月末まで電話でも受け付け。短縮版で勤めます

◇秋勧進 11月23日(火・祝)午前8時より

行事、世話方、住職が手分けして巡回。12/4お内仏報恩講の出席を伺います。秋勧進とは初穂米代わりの懇志です

◇『第2回トライアングルの歌声広場』 本堂大画面で

12月16日(木)午後1時

ギター・マンドリン、歌手と一緒に懐メロを歌いましょう! 入場無料、誰でも参加OK

◇除夜の鐘 12月31日夜11時45分より

誰でも撞けます。ご家族お揃いでお越し下さい。

◇元旦会 1月1日午前9時より 本堂で正信偈、住職法話
 庫裏で年始座談、新年のスタートはお寺から!

◇善正寺ホームページ「三重善正寺」で検索、一年分の寺報閲覧、毎日更新ブログ『住職と坊守のつれづれ日記』好評開設13年4カ月で36万2千訪問、悩み相談歓迎、即返信
 一線会テレホン法話059・354・1454で3分法話
 新納骨堂：後継者の無い方お墓でお困りの方ご相談下さい

☆ 写真アラカルト ☆



坊守スケッチ

先代住職の本に導かれて



「私は昭和30年頃の仏教青年団で、亡き先代住職さんが台本を書かれ指導された演劇で、ヨソの寺や公民館で公演をさせてもらった者です」と、突然80代の女性が訪ねて来ました。

当時としては斬新で、若者には魅力的な寺院活動だったに違いありません。

確か先代住職の本が、本堂のしんらん文庫にある筈と必死で探しました。

『友情のスクラム』『光に育つ』『道ひとすじ』『真宗生活法話』『思い出さず』に忘れずに『数冊の本を発見しました。悲しいかな、私は今までそれらをしつかり読んでいませんでした。

彼女のおかげで、31年前に往生した先代住職の本を、改めて読み返しました。時代背景は現代とはかけ離れていますが、人間の真実の在り方を仏様に問う内容ばかりで、今でも新鮮な感動を私に与えてくれます。

もし先代住職が生きていたならば、現代がどのように映るのかを尋ねてみたい気がします。そして今の私にどのようなアドバイスしてくれるのかと自問自答しました。

私には、先代住職のように若者を惹きつけるような画期的な寺院活動が思い浮かびません。

しかし昔も今も、親が子を想う心、子が親を慕う気持ちは変わりません。残念ながら今は自己中心主義の人が

多く、他人を思いやる心に欠けます。その結果、お互いに傷つけ合い、家庭が崩壊し、地縁や血縁が希薄になりました。ネットで他人をバッシングするのは平気ですが、自分の心を映す鏡はなく、恥ずかしさを知りません。

便利で豊かな時代でも、生きにくさから悩める人は増えました。そんな人々の為に、個々のお悩み相談室のような役目を果たしたいと思います。

人は死んだら終わりではありません。亡き先代住職の本を読んで、先代住職今も私を導いて下さいます。

これこそが『還相回向・げんそうえこう』とだと気付かせて頂きました。

俳壇

大声で歌う本堂秋麗ら 釋妙水

ふるさとや変わらぬ山河秋の色 秋蝶や青葉の上で乱舞する

園児らの歓声高く秋日和 釋榮邦
吊るし柿影も一緒に干されけり

街道の格子戸飾る烏瓜 釋清風
久々の帝都の空や菊日和

箒草ほつりまあるく色づけり 疫癘を超えて群参報恩講

熱演のエイサー冬の運動会 釋秀龍
僕たちは小さい秋を見つけ隊

日向ぼこ本の世界に吸い込まれる

若坊守の子育て日記No.84

五月から十月、十一月へと二度延期された小学校の運動会がようやく無事に終わりました。

当初、動画ライブ配信のみの予定でしたが、コロナが少し落ち着き、児童一名につき保護者一名が観覧できることになりました。

PTAからの指示で学年毎に色分けしたりポンを肩に付け、体温と保護者名を記入した申請書を提出。低・中・高学年の三部制で入れ替わる厳重な運動会でした。

広い運動場は閑散としていて、いつものような盛り上がりは無いのですが、子どもたちは一生懸命に走り、演技していました。私は低・中・高学年の部を観覧しました。

学年が上がると体が大きくなり、徒競走の土埃が大きくなり迫力が出てゴールまでハラハラするようなドラマを見る感じでした。

高学年の演技は後から動画で見ただけですが、最後に六年担任の先生が「今日の本番は130点の出来でした！」と褒めて頂いたのが印象的でした。目の前のことに真

つすぐ頑張る姿は、低学年の子供達にカッコ良く映ったことでしょう。子どもたちの姿と真っ青な空に清々しい気持ちになりました。



お知らせ

※「秋勸進」(新米寄進)にはお志を頂戴し有難うございました。

※12月4日(土)午前10時半より庫裏仏間で『お内仏報恩講』を勤めま

す。今年もお持ち帰り弁当を用意。(複数の申し込み可)。ご参加頂ける方は秋勸進か、11月末までに寺へ直接電話でお申し込み下さい。

※12月16日(木)午後1時より本堂で『第二回トライアングルの歌の集い』を開催。ギター・マンドリン

歌手と共に大型画面を見て楽しく歌いましょう。入場無料。誰でも参加OK。コーヒースービス有。

カンパありがとう
水谷勝子様、山中ツヤ子様、澤田美智江様、上田ひろ子様他、感謝

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」336号をお届けします。◇コロナ禍の二年が過ぎようとしています。感染防止対策に従う中で、特に高齢層の虚弱化、衰退が気がかり

◇門信徒の法要や寺の法座にお参りの範囲も狭まり、伝道機会の先細りが懸念される。◇だが、ワクチン接種も

来春には三回目接種が計画され、薬の開発も急ピッチで進む。◇朝夕の仏参、勤行は仏恩報謝とともに虚弱化防

止の特効薬にもなる。コロナに負けず、生かされて生きる命の誠を尽くしつつ、

本当の生まれ甲斐ある日々を生きたい。佳き新年をお迎え下さい。合掌・称名。

早くも師走を迎えます。あれほど心配した東京オリンピック、
ハラリ。ピックも無観客ながら終了しました。閉幕後の感染爆
発を危惧しましたがワクチン接種の効果からか、いつの間にか収
束方向に向かっています。お寺の行事も毎回気を揉みながら
短縮版でお勤めしました。もし中止をしたら、一層寺離れ
が進行するのではないかと恐れました。皆様のおかげで無
事お勤めできました。ことを厚く御礼申し上げます。コロナ
で世の中の働き方や生活の仕方が随分変わりました。
オンライン化が進み苦手な人には生き辛い時代です。
また面会が禁止されて家族でも会えず寂しい状態
です。葬儀も家族葬が一般化し少人数のお見送り。
文化面でも多人数の集まりが禁止され感動が薄れ人
の繋がりが疎遠になりました。評論家の樋口恵子さん
(89)は、後期高齢者には三つの「シヨク」が大事だと訴えます。
「食」「職」「触」です。買物に行き、誰かと好きな物を
食べ、日々出かける用事(職)を作り、人と会って触れ合う。
簡単そうに見えますが、これがコロナ禍を生きる高齢
者の智恵です。お寺は触れ合いの場所としては最適で
す。同じ時代を生き、苦勞を経験した者同士が、悩みや
喜びを語り合う場所です。身近な穂の場所としてお
手も活用して下さい。12月4日(土)午前十時半「お内仏報恩
講」。12月16日(木)午後一時「第二回トライアングル来演いき
ミドリン伴奏で歌手と共に大型画面を見て楽しく歌いま
しょう。入場無料です。詳しくは参加して下さい。皆様の御来寺を
お待ちしております。合掌。令和三年十二月善正寺坊守拝